

総合学科高校生徒の自己肯定感の向上をはかる

—取り組みの方向性の明確化とふりかえりの徹底による、生徒の自己肯定感の変化について—

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻

高橋 ユキ

1. 研究の目的

総合学科は、「主体的な学習を促しそれぞれの個性を最大限に伸ばさせること、自我を確立し人間としての在り方生き方についての自覚を深めること、人間性を豊かに育むこと」を目指して導入された学科である。生徒がそれぞれの個性を最大限に伸ばし自己実現を果たすには、自己を肯定的に捉える感情、「自己肯定感」が欠かせない。しかし、生徒の現状をみても、必ずしも、自己肯定感が高いとは言い切れない状況がある。よって、本研究では、総合学科高校の本来の趣旨に鑑み、生徒の自己肯定感を向上させるための取り組みについて考察する。

2. 研究方法

東京都教職員研修センター紀要(2008)は、自己肯定感を高めるための指導モデルをいくつかあげているが、それらの多くに共通するのが、「目標を意識させること」と「自己をふりかえらせること」である。また、藤波(2005)は、「自己理解・自己受容・他者理解」により自己肯定感が育つと述べ、これらを目的としたエクササイズをおこなうとともに、ふり返りカードに、自他に関する気づき等を記入するという実践をおこなっている。

これらの先行研究をふまえ、本研究では、ガイダンス(「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」に相当する科目)の授業で「ふりかえりシート」を活用し、生徒が自分自身について考える時間を設け、その効用をはかることとした。具体的な取り組みとしては、職員に対して研修会を実施し、①「その時間の目標や学びの内容の把握」、②「授業開始時における本時の目標や内容の生徒への明示」、③「授業の終わりにふりかえりの時間をとる(ふりかえりシートの利用)」の3点を徹底しておこなうこととした。

3. 効果の検証と考察

効果の検証は、上の①～③の取り組みの前後でとった

2回のアンケートの結果を比較することでおこなった。まず、生徒アンケートの、自己肯定感に関わる12の質問項目の回答を比較したところ、2年次では12項目中9項目で自己肯定的な回答をした生徒の割合が増加した。また、ふりかえりシートの効果をどう感じているかきいたところ、「授業内容の理解につながった」、「自分自身の理解につながった」等、6項目中4項目で、半数以上の生徒が、効果を感じていると回答した。さらに、「ふりかえりシートへの評価」と「自己肯定感の変容」に関連性があるかどうか調べてみたところ、ふりかえりシートの意義を感じて取り組んだ生徒に自己肯定感が向上している傾向が認められた。このことから、今後は、ふりかえりの意義を生徒に実感させる指導方法の工夫について考えていく必要がある。

職員アンケートの結果からは、職員の意識にも変化が起こっていることがわかった。各教育活動において「生徒に身に付けさせたい力」についての意識が全体的に高まっており、また、授業の目標とふりかえりの重要性について、70%以上の職員が、以前よりも意識するようになったと回答した。さらに、自由記述欄に書かれた感想・意見からは、生徒のふりかえりに対する「先生のコメント」が、生徒のやる気を向上させるだけでなく、教員側のメリットにもつながることがわかった。今後は、この「先生のコメント」の重要性を踏まえ、取り組み方法の改善について考えていく必要がある。

主な参考文献

「自尊感情や自己肯定感に関する研究 —幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導の在り方—」(平成20年度 東京都教職員研修センター紀要 第8号)

「自己肯定感を高め、どの子にも居心地のよい学級をつくるための研究—特別活動における開発的・予防的教育相談活動を取り入れた指導を通して—」藤波貴(平成17年度 山梨県総合教育センター一般留学生研究報告書)

「生徒の学習意欲に及ぼす教師の言葉かけの影響」吉川正剛、三宮真智子(鳴門教育大学情報教育ジャーナル4 2007)